

令和3年度第3回朝日町総合教育会議 会議録

令和4年2月22日（火曜日）

午前10時35分から午後12時10分

エコミュージアムコアセンター創遊館会議室

出席者 朝日町長 鈴木 浩幸
朝日町教育委員会
教育長 堀 俊一
委員 五十嵐義一
委員 井上 幸弘
委員 橋間 博美
委員 海野 睦

職務のため出席した者の職氏名

主幹 田中 靖士
補佐兼学校教育係長 佐々木直美（書記）
主査兼生涯学習係長 伊藤 雅樹

1. 開 会

課長の進行及び開会宣言

2. あいさつ

鈴木 浩幸 朝日町長
堀 俊一 教育長

3. 協議事項

教育文化課課長補佐より会議の招集者である町長を議長とすることを確認し、了承を得る。

議長（鈴木町長） (1) 令和3年度の朝日町の教育の推進（総括）について説明を求めた。

主幹 今年で4年目を迎えた第2次朝日町教育振興計画の目標指標に沿って、今年度の実績値等から推進状況について説明した。

議長（鈴木町長） (1)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

五十嵐委員 令和3年度についてはコロナ禍の大変な状況の中、それぞれ頑張っていると思う。

井上委員 コミュニティ・スクールに参画した地域団体の数が大変多かった。宮宿小スキー教室に地域の方5名が協力し指導者がたくさんいてまめにできてよかった。

たくましさをスポーツで鍛えることも大切だがちょっとした成功体験の積み重ねの繰り返しが大事。前向きになりいろんなところにつながっていく。

橋間委員 全体的に上がっている。携わっている方々の努力に感謝する。少しでも役立てていることを実感すると協力できる方も増えるのではないかと。ICTと今までのやり方もうまく合わせながらしていくことが大事。たくましさについて少子化で家庭の中で我慢させるところが少なくなっている。もっと掘り下げて教育することも必要

海野委員 コミュニティ・スクールの中で地域の方がそれぞれの得意分野を教えて次世代につ

ないでいることが心強くてありがたい。人の役に立つ人間になりたい子供が多くてうれしくなった。一方で自分に自信がない子が多い。自分に自信をつけていくには自己肯定感を育むことが必要。家庭で気づかないといけない。親と子供を一緒にサポートしていく。ICTを活用し朝日町とつながりのある他市町との交流があればよいのではないか。

教育長

人の役に立つ人間になりたい子供が多くそのなかで朝日町を好きになって将来も朝日町を忘れない大人に成長してほしい。現在は保護者の方も教育においてほめる、しかるが難しい状況にあると思う。親としての交流会の中で家庭教育の視点で実施できるようになればより充実したものになるのではないか。オリンピックを観て自分をさらけ出すことが大事だと感じた。

田中主幹

教育の現場ではかしこく、やさしく、たくましくのなかで強さが欲しいという声があります。

教育長

すぐ泣いてしまう子もいる。

議長（鈴木町長）

自己の肯定感は自分以外の他の人が自分に対しての良さを客観的に見て導くことで育むことができるのではないか。本田宗一郎さんのように自分の好きなところを続けていく。子供だけでなく地元、地域の方が協力している。町の宝を通して子供を育んでいかなければならない。

議長（鈴木町長）

(2) これからの朝日町の教育の推進（展望）について、説明を求めた。

主幹

今年度の総括と次年度への展望を3つに絞って別紙の資料のとおり説明

議長（鈴木町長）

(2)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

井上委員

朝日町では令和4年4月からタブレットの持ち帰りを予定している。文部科学省はデジタル教科書導入を検討しているようだが先進的に実施しているところで必ずしも学力向上につながらないと聞く。機械を使って調べると分かったつもりになってしまう。プラスとマイナスのところを認識してタブレットは道具として使うことを強調していかなければならない。

主幹

令和6年度から全国学調をタブレットで実施予定と示されています。

教育長

5年後、タブレット端末更新があります。今後の制度設計を視野に入れて実施計画に計上していく必要があります。

橋間委員

誹謗中傷などがあるので現場の先生方は大変だがしっかり指導していく必要がある

議長（鈴木町長）

(3) あさひまち未来の学校のあり方に関するアンケート調査結果について、説明を求めた。

主幹

資料により説明した。

議長（鈴木町長）

(3)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

橋間委員

一貫教育については保育園からしっかり指導している。保育士になる方が少ない。朝日町の保育園に勤める方を増やすために給与、待遇面を変えていくことも検討が必要ではないか。

不登校、ひきこもりにならないための対策、対応をしっかりとしていけないといけない。

海野委員

GIGAスクールの推進により1人1台の端末が導入されたが、タブレットの活用には個人差がある。学習障害のある子にはタブレットが有用である。その子に合っ

た学びの方法がある。タブレットと紙・鉛筆のそれぞれいいところを使って学んでいく。コミュニティ・スクールのなかで地域の匠の方が元気なうちに子供たちはたくさん体験できたらいいと思う。

橋間委員

今年、大谷小学校に地域学校協働本部「大谷っ子サポーターズクラブ」が誕生した。人的、地域的な支えが必要。無理にならない程度に学校でも地域の先生を開拓していく。GIGAスクールについてはICT支援員の配置があれば先生方も安心して新しいことに取り組んでいけるのではないかな。

五十嵐委員

現在の子供は幼児期からタブレット等使用しているが使用時間等基本的なるルールは必要であり、そこはしっかりと教えていく。

井上委員

ミライシードに予算が計上されているが、これらICTに使われるのではなく使っていく。新聞等に電磁波過敏症の掲載記事があり、今後、視力等健康観察を定期的にして周りの大人がきちんと見ていく必要があるのではないかな。

教育長

まずは1年間実施したなかにおいて課題に対応する。

議長（鈴木町長）

保小中連携一貫教育の他市町の状況はどうか。

主幹

西川町では英語を小学校から中学校までの9年間を実施している。朝日町のような保小中連携一貫教育を実施しているところはないと思われます。

議長（鈴木町長）

その他の質疑、意見の有無を確認し、質疑及び意見並びにその他協議事項が無い旨を確認した。

4. 閉 会

以上、協議し、午前11時50分に第3回朝日町総合教育会議の会議を閉じた。

町 長

教 育 長

調 製 職 員 佐々木 直美